

行 動 と 心 理

科目責任者 野 畑 友 恵
学年・学期 1 学年・1 学期

I. 前 文

本講義では、人の行動の仕組みについて学ぶ。人の行動は、環境からの刺激と心の働きの相互作用によって行われる。どのような環境が行動を引き出し、心の働きによってどのように行動が影響を受けるのか、様々な観点から概説する。

人の理解は、自己、他者、社会（他者の集まり）の行動を理解するのに役に立つ。自分が自身や他者をどのように感じているのかという主観的な捉え方に加え、自分や他者がどのような状態にあるのかを客観的に捉える視点を学び、適切な行動や支援を模索する力を身につける。

II. 担当教員

野 畑 友 恵 （基盤教育部門）
上 田 秀 一 （解剖学（組織））
古 郡 規 雄 （精神神経医学講座）

III. 一般学習目標

人の行動と心理を理解するための基礎的な知識と考え方を理解する。

IV. 学修の到達目標

1. 人の行動に影響する要因を説明できる。
2. 生涯発達における各段階の課題を説明できる。
3. 個人の違いを理解する観点を説明できる。
4. 他者や集団の中で観察される行動について説明できる。

V. 授業計画及び方法

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
1	4	14	火	2	行動のしくみ	野 畑 友 恵
2		15	水	1	行動と心理 (1)	野 畑 友 恵
3		21	火	2	行動と心理 (2)	野 畑 友 恵
4		22	水	1	行動と脳	上 田 秀 一
5		28	火	2	行動の学習 (1)	野 畑 友 恵
6		30	木	5	行動の学習 (2)	野 畑 友 恵
7	5	7	木	5	行動と動機付け	野 畑 友 恵
8		12	火	2	行動と動機付けの葛藤	野 畑 友 恵
9		13	水	1	行動と環境 (1)：ストレス	野 畑 友 恵
10		14	木	5	行動と環境 (2)：ストレス対処行動	野 畑 友 恵

回数	月	日	曜日	時限	講 義 テ ー マ	担 当 者
11	5	19	火	2	行動の経年変化 (1) : 生涯発達	野 畑 友 恵
		20	水	1	中間テスト①	
12		21	木	5	行動の経年変化 (2) : 発達過程①	野 畑 友 恵
13		26	火	2	行動の経年変化 (3) : 発達過程②	野 畑 友 恵
14		27	水	1	行動の経年変化 (4) : 発達過程③	野 畑 友 恵
15		28	木	5	行動の経年変化 (5) : 発達過程④	野 畑 友 恵
16	6	2	火	2	行動の経年変化 (6) : 発達過程⑤	野 畑 友 恵
17		3	水	1	行動の個人差 (1) : パーソナリティ①	野 畑 友 恵
18		4	木	5	行動の個人差 (2) : パーソナリティ②	野 畑 友 恵
19		9	火	2	行動の個人差 (3) : 知能①	野 畑 友 恵
		10	水	1	中間テスト②	
20		11	木	5	行動の個人差 (4) : ジェンダー	古 郡 規 雄
21		16	火	2	行動の個人差 (5) : 知能②	野 畑 友 恵
22		17	水	1	人間関係を形成する行動 (1)	野 畑 友 恵
23		18	木	4	人間関係を形成する行動 (2)	野 畑 友 恵
24		23	火	2	集団の中での行動 (1)	野 畑 友 恵
25		24	水	1	集団の中での行動 (2)	野 畑 友 恵
26		25	木	5	他者と関わる行動 (1) : コミュニケーション①	野 畑 友 恵
27		30	火	2	他者と関わる行動 (2) : コミュニケーション②	野 畑 友 恵
28	7	1	水	1	行動の獲得や変容	野 畑 友 恵

VI. 評価基準 (成績評価の方法・基準)

中間試験 (2回) および定期試験で評価する。

VII. 教科書・参考図書・AV資料

[教科書]

使用しない。

[参考図書]

授業内で随時紹介する。

VIII. 質問への対応方法

質問は、授業の前後で受け付ける。

また、事前にメール等で連絡をして予定を確認し、研究室へ来室する。
詳細は、各担当者より授業内で説明する。

IX. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

*◎：最も重点を置くDP ○：重点を置くDP

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）		
医学知識	人体の構造と機能、種々の疾患の原因や病態などに関する正しい知識に基づいて臨床推論を行い、他者に説明することができる。	
	種々の疾患の診断や治療、予防について原理や特徴を含めて理解し、他者に説明することができる。	
臨床能力	卒後臨床研修において求められる診療技能を身に付け、正しく実践することができる。	
	医療安全や感染防止に配慮した診療を実践することができる。	
プロフェッショナリズム	医師としての良識と倫理観を身に付け、患者やその家族に対して誠意と思いやりのある医療を実践することができる。	○
	医師としてのコミュニケーション能力と協調性を身に付け、患者やその家族、あるいは他の医療従事者と適切な人間関係を構築することができる。	○
能動的学修能力	医師としての内発的モチベーションに基づいて自己研鑽や生涯学修に努めることができる。	
	書籍や種々の資料、情報通信技術（ICT）などの利用法を理解し、自らの学修に活用することができる。	
リサーチ・マインド	最新の医学情報や医療技術に関心を持ち、専門的議論に参加することができる。	
	自らも医学や医療の進歩に寄与しようとする意欲を持ち、実践することができる。	
社会的視野	保健医療行政の動向や医師に対する社会ニーズを理解し、自らの行動に反映させることができる。	
	医学や医療をグローバルな視点で捉える国際性を身に付け、自らの行動に反映させることができる。	
人間性	医師に求められる幅広い教養を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎
	多様な価値観に対応できる豊かな人間性を身に付け、他者との関係においてそれを活かすことができる。	◎

X. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

中間試験の結果を講評・解説します。

XI. 求められる事前学習、事後学習

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）

XII. コアカリ記号・番号

シラバス別冊に記載。なお、シラバス別冊に記載が無い場合、要点を確認しておくこと。（所要時間の目安20分）